

# 平成21年度 社団法人 大阪府臨床検査技師会 第1回定期総会 (平成20年度決算総会)

日時	平成21年5月28日(水)午後7時00分～8時00分
場所	大阪産業創造館6階会議室E
次第	1. 開会の辞 2. 議長選出 3. 議長挨拶 4. 総会役員選任 1) 資格審査委員兼議事運営委員任命 2) 書記任命 5. 会長挨拶 6. 資格審査報告 7. 議案審議 1) 第1号議案 平成20年度各部事業計画に関する件 2) 第2号議案 平成20年度決算に関する件 3) 第3号議案 その他 8. 議事録署名人選任 9. 総会役員解任 10. 議長挨拶 11. 閉会の辞

## 議事録(概要)

### 1. 開会の辞

定刻どおり運天副会長より平成21年度第1回定期総会開会の辞があった。

### 2. 議長選出

議長選出について、総会出席者中より議長立候補者がいないため、執行部からの提案として杉山昌晃氏(市立岸和田市民病院)ならびに池田勝美氏(城山病院)の2名を提案し、出席者の拍手多数をもって承認された。

### 3. 議長挨拶

杉山議長より議長就任の挨拶があった。

### 4. 総会役員選出

#### 1) 資格審査委員兼議事運営委員任命

杉山議長より、資格審査委員兼議事運営委員として理事から田畑理事ならびに井戸田理事の2名と、出席者より北川篤氏(きつこう会多根総合病院)、伊東宏美氏(大阪府泉州救命救急センター)、森川真弓氏(大阪警察病院付属人間ドッククリニック)の3名が選任され、委員長には田畑理事が任命された。

#### 2) 書記任命

杉山議長より、書記として、大臨技事務所職員の岩崎氏ならびに仲野氏の2名が選任された。

以上の総会役員任命について、出席会員の拍手多数をもって承認された

### 5. 会長挨拶

平成21年度第1回定期総会平成20年度決算総

会を開催するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

私ども役員は、昨年4月に会長・副会長および理事の一部が変わり、新体制となってからの不慣れな1年間でしたが、本日ここに無事に全ての事業を完了したことをご報告できることは役員一同大きな喜びです。これも一重に会員の皆様方の絶大なご協力のたまものと、心より感謝しています。

さて、昨年3月の予算総会で承認された平成20年度の事業計画案と予算案にしたがってこの1年間各種事業を行ってまいりました。研修会や勉強会はもとより、公益的事業にもこれまで以上に大きな力を注ぐことができたと自負しています。昨年の予算総会で決議された公益法人化についてもちょうど1年間の準備期間を終え、次なるステップである定款改定作業へと予定どおりに順調に進んでいることをここに報告いたします。

本日はこれから各部部长から各部事業報告、そして会計部長から決算報告を行っていただきますが、どうかよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

### 6. 資格審査報告

田畑委員長より資格審査報告があり、本日の会員出席者数30名、委任状によるもの2,404名、計2,434名で、平成21年5月28日現在の正会員総数3,123名の過半数を超えており、本総会は成立するとの報告があった。この報告を受け、杉山議長より定款22条に基づき本総会の成立宣言があった。

ここで、議長を池田議長に交代した。

## 7. 議案審議

- 1) 第1号議案 平成20年度各部事業報告に関する件  
各部から議案書に従って平成20年度の事業報告が行われた。

### I 総務部

吉本理事より、庶務、広報の2部会について報告。H20年度より、総務部から会計部が独立し会計部となり、総務部は庶務、広報の2つの部会となった。それぞれについて順に報告する。

#### 1. 庶務（大臨技の運営に関わる業務）

- 1) 2回の定期総会および、日臨技の総会と合わせて開催案内および委任状を会員に送付。総会時の永年会員表彰、感謝状表彰関連の準備作業も行う。
- 2) 理事会を始め大臨技の各種会議の開催準備および開催を行った。
- 3) H19年度の事業報告書を作成し大阪府へ報告した。
- 4) H22年に「公益社団法人」の認定取得に向け、6回の「公益法人化準備委員会」を開催し、定款改訂等準備を進めた。
- 5) 教育施設との連携は、教育施設と当会との連携強化を目的に、各教育施設担当者や当会担当者による「臨床検査教育施設懇談会」の開催、各教育施設の学生への大臨技ニュースの配布、学生への技師会活動の啓発のための「第3回大臨技教育セミナー」を開催した。また、平成20年度より、各教育施設より推薦された学生に対し卒業式時に「大臨技会長賞」の授与を開始した。
- 6) 3月31日の新事務所移転に伴う準備作業を行った。

#### 2. 広報

- 1) 「大臨技会報」は、会員の皆様へ大臨技に関する資料を提供する目的のために1回発行した。
- 2) 「大臨技ニュース」は、月々の最新ニュースを届けるため、第231号から第242号まで毎月1日に発行した。
- 3) 2年毎に発行する会員名簿は、H20年度が発行年度に当たるため「大臨技会員名簿 H20年8月1日現在」を発行した。
- 4) 大臨技ホームページは、関連団体からの情報や理事会議事録の掲載など、会員の皆様に対しリアルタイムで正確な情報提供のため、逐次更新した。

### II 渉外部

清水理事より、渉外部の3事業（献血推進運動、他団体との連携交流、障害者への理解と協力）を報告。

1. 献血推進活動では第29回献血推進活動をH20年8月9日（土）10:00～16:00難波グリーンガーデンにて開催し、献血受付83名、献血者69名の協力があつた。第30回献血活動推進活動をH21年2月14日（土）10:00～16:00同じく難波グリーンガーデンで開催し、献血受付112名、献血者85名の協力があつた。
2. 他団体との連携交流では、大阪府「看護の日」記念行事をH20年5月9日、10日の2日間、9:00～17:00を大阪府看護協会会館におい

て、世話人延べ32名の協力で、検尿:94件、血糖測定:305件、頸動脈エコー170件の測定を行った。第4回 府民健康フォーラムではH20年11月22日（土）14:00～17:00、大阪YMCA国際文化センターにて、「運動療法とメタボリックシンドローム ～メタボといわれたあなたへ～」をテーマとして開催し、一般25名、薬剤師会125名、栄養士会86名、技師会22名の合計267名の参加があつた。第8回大臨技・大放技合同フォーラムでは、H21年1月17日（土）13:30～17:00に、大阪市立中央青年センターにおいて、「40歳からの特定健診（メタボリックシンドローム）一みつめよう自分の体型～」をテーマとして開催し、一般25名、大放技28名、大臨技48名の合計101名の参加があつた。

3. 渉外部講演会では、H21年2月7日（土）14:00～16:00 クレオ大阪にて「気づくことの大切さ～手話を通して学んだこと～」をテーマとして、多田京子先生をお招きして手話講演会を開催、21名の参加があつた。

### III 情報組織部

井戸田理事より、H20年度の4事業を報告。

技師間における組織の強化ならびに新人の教育研修および技師会への入会斡旋、チーム医療への参画とスキルアップを目的に事業を開催した。

職域部会をH20年4月25日および平成20年7月12日に、「人事管理」をテーマに情報提供とディスカッションを行ない、それぞれ35名、29名の参加があつた。

収支管理研修会をH20年7月12日に「検査室の効率化」をテーマに開催し、42名の参加があつた。

新入会員研修会をH20年8月16日に開催し、新人の研修を行ない40名の参加があつた。

第25回技師長会を平成21年2月21日に、「チーム医療」をテーマに開催し、53名の参加があつた。チーム医療部門の報告として、糖尿病療養指導部会では特別講演会をH20年7月21日とH21年2月22日に開催し、各々の参加者数は91名、73名。

定例会を4回開催した。ICT部会では平成20年6月20日、H20年11月28日、H21年2月19日と3回の定例講習会を開催し、各々82名、50名、94名の参加があつた。NST・褥瘡部会ではH20年9月6日に講習会を開催し、45名の参加があつたことを報告した。

### IV 地区事業部

田畑理事より、H20年度の3事業を報告。

1. 会員相互の交流の強化学業として会員交流会9月13日 JICA大阪にて、「仏語圏アフリカ国の研修員を囲んだ会員交流」会員の交流及び、異文化情報交換等を行うことが出来、親睦を深めることが出来ました。
2. 学術集会及び自由集会の開催事業として
  - 1) 第11回大臨技フォーラムを6月21日大阪市中央会館にて第1部 特定健診と臨床検査データ標準化事業啓発講演会「臨床検査データ標準化」「特定健康診査に用いる血液検査8項目の常用参照物質とトレーサビリティ」第2部 臨床検査データ標準化サーベイ説明会「大臨技臨床検査データ推進委員会の歩み」「平成

20年度大臨技臨床検査データ標準化事業実施計画発表」具体的な方針が示され活発な討議がされた。

- 2) 施設連絡者会を大阪府病院年金会館にて、3月21日技師会報告「事務所移転とマタニティーカーニバルについて」「ナースに学ぶ新人教育」「輸血事故の例を通じて検査室の危機管理を学ぶ」について、連絡者会を開催しました。

- 3) 北、中央、南の3支部は、職能を主題として、それぞれ2回の自由集会を行った。

①北支部では、大阪医科大学で7月28日、テーマ:そうなんや!!よくわかる尿解明「尿検査の基本的知識」「時間外検査における尿沈渣検査の現状と臨床医の望むもの」「尿沈渣検査について-新しいテクノロジーの有効利用-」特別講演の「尿検査の過去・現在・未来」、12月13日「データ標準化」の最新情報すべて見せます!止血検査のウラオモテ 1.基礎編 2.臨床編について、自由集会を開催。

②中央支部では、大阪府立成人病センターにて7月26日「診療報酬改定に伴う検体管理加算の取得」をテーマに 1部.グラム染色・抗酸菌染色の基礎 2部.緊急現場での細菌検査の臨床的意義。後に学術部微生物検査部門にてグラム染色の実技講習会を開催するきっかけとなった。1月31日 1部.「病院機能評価対策とDPC制度の理解」をテーマに病院機能評価はなぜ必要なのか?DPCって良くわかりませんという方に、やさしいDPCの話 2部.DPC導入、病院機能評価受審後の施設の苦労話。DPC導入、病院機能評価受審前の準備は大変です。について自由集会を開催。

③南支部では、大阪南医療センターにて5月15日「院内感染対策-菌ちゃんの何でそ~なるの?飛び(感染)ます!飛び(感染)ます!」「当院におけるICT活動の実際と実例報告-ノロに呪われた-」「当クリニックにおけるメタボ健診への取組み-腹囲測定から保健指導まで-」、12月5日 岸和田市民病院にて「大臨技データ標準化事業と日常検査値の保証」1.大臨技データ標準化事業中間報告-あなたの施設の測定値はどうですか?-2.基本的な日常校正法とトレーサビリティの確認方法について自由集会を開催。3支部とも充実した内容の自由集会が開催しています。また今年度の学術集会は大臨技データ標準化事業の啓蒙活動を中心に行った。地域医療活動に関する協力事業として豊中、吹田、茨木、摂津、各市で行われている協力事業で各健康展とも、大勢の市民の方が参加され大変盛況に行われた。地域の方々が、中心となり充実したものとなっていて今後も臨床検査、検査技師をアピールするために、参加、協力したいと考えている。

## V 学術部

高田理事より、H20年度の学術部の事業を報告。

学術部の事業活動は、事業企画および事案に対する会議として学術部会を事務所にて5回行った。

会計報告をスムーズに行えるよう会計担当者会議を1回開催。昨年度より学術部が担当する第4回大臨技教育セミナーの準備会議である各技師養成学校・

大学の担当者との懇話会を1回事務所で総務部と協同で開催し意見の交換を行った。

学術部事業として、7月19日に関西医大滝井病院で開催した第3回大臨技教育セミナーを担当し教育講演としてセネガルでの海外青年協力隊で活躍された会員の方に現地の生活や医療情勢について報告していただき、ワークショップでは大阪府下の技師学校の先輩諸氏の体験談や今後の希望等を話していただき参加者177名の大部分を占める学生の方にとって進路を決めるときの一助になるような講演を行った。

「緊急検査 その式」をテーマに第12回大臨技フォーラムを9月20日にあべのメディックス6階ホールで開催。3年前に開催した「その一」と同様、127名と多くの方の参加を頂き分野を越えた白熱した討論が行われた。また、開催後会員の方より貴重な意見を頂き学術部としても検討を加え今後の事業に反映していきたいと思っております。

20年度の救急処置に対する取り組みとして10月7日に関西医大滝井病院にて「あなたの勇気が命を救う!」というテーマで救急処置の講演会を開催。実践編として済生会中津病院との共催でICLSコースを11月30日に済生会中津看護専門学校で開催した。

技師会より12名の参加者予定が当日1名の欠席がありましたが一日たつぷりと時間を費やし、救急処置の重要性を認識したと思っております。今回インストラクターとして参加した方の中には第1回のコースで参加者が多く含まれていて、今後も継続してコースを開催し会員に対し医療人として一人でも多くの方が救急処置に対する知識を身につけるよう啓発し、当会としても検査技師のインストラクターが多く生まれるよう今後も努力していく予定です。

日臨技、近臨技関係に関して、第57回日本医学検査学会に一般演題の座長を10名の推薦し、一般演題では41題と前年より多い発表がありました。

第48回近畿医学検査学会では15名の座長推薦を行い、50題の一般演題とシンポジウム等に8題の発表がありました。20年度も新しく企画された事業は開催されませんでしたが一年を通じてシリーズ化されている事業、年次を越えて継続されている企画を中心に講演会、研修会、実技講習会等の事業を実施し、20年度はチーム医療が情報組織部に異動した関係で106回と減少しましたが参加者は約6600名と一昨年と同等の数字を残すことが出来ました。開催する事業に関して恒に安定した参加者があり会員のニーズにあった事業を開催しています。これらの事業を開催することで学術部の目標の一つである会員の各分野での知識の向上と新しい知識の習得に学術部の各事業が少しでも寄与していると確信いたしており今後は、毎年継続した事業を開催しているだけではマンネリ化し事業の停滞・参加者の減少が起こるため会員の要望に傾聴し十分に対応することが重要であると考えています。

以上のように学術部としては平成20年度も予算総会で承認された計画案で事業を展開し、ほぼ満足すべき結果を残せたと考えております。

以上の第1号議案「平成20年度各部事業報告に関する件」は質問、意見共なく出席会員の拍手多数

をもって承認された。

## 2) 第2号議案 平成20年度決算に関する件

「平成20年度決算に関する件」について別紙「収支計算書」をもとに荒木理事より説明された。

### 収入に関する報告

会費収入:会員増により815,500円の増収、事業収入:各種研修会の増収により608,426円の増収、補助金収入:日蘭技公益事業補助金により361,700円の増収、雑収入:256,711円の増収、当期予算額に対し2,108,657円増の31,778,657円であり、前期繰越収支差額と合わせ42,897,224円の収入を計上した。

### 支出に関する報告

人件費:462,670円の減、会議費:29,600円の減、事務経費:78,957円の減、事務所費:86,463円の減、学術研究費:1,508,948円の減、広報印刷費:298,620円の減、渉外費:89,960円の減、情報組織費:383,430円の減、各種研修会費:32,040円の増、各種委員会費:384,911円の減、の減、地区事業費:30,778円の減、諸経費:諸謝金・雑費減により87,768円の減、当期予算額に対し3,349,204円減の31,320,796円を計上した。当期収支差額は457,861円となり、前期繰越収支差額11,118,567円と合わせ、11,576,428円を次期繰越収支差額とした。繰越金の使途は検討課題とする。今期は、前年度と比較して会員の増加と部会の減少が顕著であった。

続いて村上監事より、定款36条の規定により平成20年度の監査を、東野監事ならびに村上監事で実施した結果について監査報告があった。

### 【監査報告書】

#### 1. 会務について

平成20年度定期総会において、決議された事業計画については、円滑に遂行されていると認めます。また、事務局、事業部の各部は、下記の事業を通して会員への情報提供や専門教育および府民への貢献のために活発な活動を行なわれたことを高く評価します。

#### 2. 会計について

収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書をはじめ各帳簿並びに各証拠書類の整理及び備品管理は適正に行われていると認めます。

#### 3. 意見及び要望事項

今年度も各役員や部会の世話人の方々および会員が一致団結して活動されました。

今後も皆さんが協力しあって会員や府民のために遂行されることを期待します。

以上の第2号議案「平成20年度決算に関する件」および「会計監査報告」は質問、意見共なく出席会員の拍手多数をもって承認された。

## 3) 第3号議案 その他

本岡氏(協和会病院)から、会員の各種学術部開催事業には積極的に参加があるのに定期総会への参加者が少ない。自分たちが納めた会費の使われ方や事業の運営に関わる内容が検討される場である総会を、もっと多くの会員が積極的に参加するよう

なものとして欲しいという要望があった。

今井会長から、今後は多くの会員の参加が得られるように工夫をして行きたいと答弁があった。

その他、議案上程はなく池田議長より、平成20年度第2回定期総会の議案審議の終了が宣言された。

## 8. 議事録署名人選任

池田議長より、議事録署名人として本日出席者の中から、川井和久氏(大阪府泉佐野保健所)、本岡敬一郎氏(協和会病院)の2名が選任された。

以上の議事録署名人の選任について、出席会員の拍手多数をもって承認された。

## 9. 総会役員解任

池田議長より、本総会の役員および書記が解任された。

## 10. 議長挨拶

池田議長より、議長退任の挨拶があった。

## 11. 閉会の辞

竹浦副会長より、平成21年度第1回定期総会閉会の辞があり、午後8時00分閉会となった。

平成21年5月28日

議事録署名人  
同

川井 和 久 印  
本岡 敬一郎 印